

入門（A1）レベル漢字オンラインコースの開発及び運用

魏娜、三浦多佳史、宮島知（国際交流基金関西国際センター）

The Development and Operation of Starter (A1) Level Kanji Online Course

Na WEI, Takashi MIURA, Tomo MIYAJIMA The Japan Foundation Japanese-Language Institute,
Kansai

要旨：入門（A1）レベルの日本語学習者の漢字学習を支援するために、オンラインコースを開発した。本コースは漢字語 56 語をインタラクティブに学習できること、そして学習者が達成感を得て継続的に学べることを重視して制作した。2019 年 7 月より「漢字 A1-1 自習コース」を開講し、その制作経験と運用から得られたフィードバックを生かして「漢字 A1-2 自習コース」を制作し、2021 年 4 月に開講した。現在までに、105 の国・地域で延べ約 13,000 名の受講者がおり、好評を得ている。本稿では、コースの開発経緯、内容と特徴、運用結果を報告する。

キーワード：漢字、オンラインコース、入門（A1）レベル、インタラクティブ

1. はじめに

国際交流基金関西国際センターは、2016 年 7 月より日本語学習のためのプラットフォーム「JF にほんご e ラーニング みなと」(<https://minato-jf.jp>)（以下、「みなと」）を運用している。「みなと」では、まるごとオンラインコースをはじめ、アニメ・マンガから日本語を学ぶアニメ・マンガの日本語コースシリーズ、日本伝統文化と関連する日本語を学ぶ書道コース、華道コースなど、世界中の日本語学習者にさまざまなコースが提供されている。

入門（A1）レベル漢字オンラインコース（以下、漢字コース）は「漢字 A1-1 自習コース」（以下、「漢字 A1-1」）と「漢字 A1-2 自習コース」（以下、「漢字 A1-2」）から成っており、前者は 2019 年 7 月に開講し、後者は 2021 年 4 月に開講された。

本稿では、コースの開発経緯、内容と特徴、運用結果を報告する。

2. コースの開発背景と経緯

加納（2001）によると、かな文字やアルファベット文字などと比べ、漢字は格段に複雑な「形態」を持っているため、外国人日本語学習者にとって字形の識別だけでも慣れるのに時間がかかる。また、漢字 1 字に意味情報及び語としての用法情報も含まれており、さらに複数の読みが付随されているため、処理すべき情報量の多い文字である。これによって、漢字は形、義、音の複雑さで、日本語学習者、特に非漢字系日本語学習者にとって学習が困難であり、有効な漢字教材や漢字コンテンツを開発することが漢字学習の支援に必

要な課題であると考えられる。

「みなと」では、日本語学習者の文字学習を支援するために、仮名を学習できる「ひらがな A1 自習コース」、「カタカナ A1 自習コース」¹⁾が開講されているが、2019 年までは漢字に特化したコースがなく、「漢字のコースを提供してほしい」という声が多く受講者から寄せられていた。

一方、ICT の日本語教育分野での普及に伴い、パソコンやスマートフォンで利用できる漢字学習リソースも増えてきた。魏・安達・笠井（2019）は、既存の漢字学習のための e ラーニング教材を調べた。その結果、「漢字のオンライン辞書やウェブサイト」、「漢字の映像教材」がほとんどで、その内多くのものがインプットのみ重視し、学習者の主体的な学習を促すものは少なかったと述べた。

そこで魏ほか（2019）は、インタラクティブに、継続的に学べることを重視した漢字オンラインコースの開発を計画し、「漢字 A1-1」を制作した。続いて筆者らは「漢字 A1-2」を開発するにあたり、「漢字 A1-1」の制作で得られた経験を活かし、教材の改善と工夫を行った。本稿では、2 コースの内容と共通する特徴を説明し、「漢字 A1-2」制作上のさらなる改善と工夫を中心に述べる。

3. コースの内容と特徴

本節では、漢字コースの概要、構成及び特徴について述べる。

3.1 コースの概要

本コースの対象者は、「みなと」で他のコースを勉強しながら、漢字を補助的に学習したい人、漢字自体に興味があつて気軽に勉強したいと考えている入門レベルの学習者とした。

コース全体の目標は、以下の二つである。

- ・漢字の由来や特徴を知ること（「漢字 A1-1」）
- ・いくつかの場面で、よく目にする漢字を認識し、大まかな内容を理解することができること（「漢字 A1-1」「漢字 A1-2」）

学習範囲について、「漢字 A1-1」は漢字の歴史や由来、特徴、『まるごと A1』のトピック 3～5 に出現する漢字語 20 語、「漢字 A1-2」は『まるごと A1』のトピック 6～9 に出現する漢字語 36 語を学習範囲とした。

2 コースとも、教師のサポートが付かない「自習」タイプで、受講者がいつでもどこでも自分のペースで学習できるようにデザインした。コースの解説言語は英語である。また、パソコンだけではなく、スマートフォンやタブレットでも受講できるように、教材を制作した²⁾。

学習時間の目安として、「漢字 A1-1」は 3 時間、「漢字 A1-2」は 4 時間とした。

3.2 コースの構成

「漢字 A1-1」、「漢字 A1-2」はそれぞれ 5 つのステップで構成され、ステップ 1～4 の各ステップにおいて学習目標漢字語、目標 Can-do が設定されている。

表 1 は、各コースのトピック名、学習目標漢字語、目標 Can-do をまとめたものである。

表 1：コースの内容

	ステップ	トピック	学習目標漢字語	目標 Can-do
漢字 A1-1 自習コース	1	漢字イントロダクション	—	漢字の歴史、成り立ち、特徴を理解することができる
	2	メニューを見よう	魚、肉、卵、水、食べます、飲みます	レストランでメニューを見て、食材などのごく基本的な情報を探し出すことができる
	3	どんな家？	大きい、小さい、新しい、古い	日本人の友達から届いた短い簡単なメールを読んで、友達の家の特徴を理解することができる
	4	1 週間のスケジュール	～時～分、～時半、月（火、水、木、金、土、日）よう日	視覚的な補助があれば、短いブログを読んで、いつ何をしたかを理解することができる
	5	学習の振り返り	—	—
漢字 A1-2 自習コース	1	言語交換パートナーを探そう	言います、話します、読みます、見ます、聞きます、書きます、～年～月～日	SNS のプロフィールを見て、話せる言語、趣味などを理解することができる
	2	どこで待ち合わせ？	東口、西口、南口、北口	駅の出口案内標識を見て、出口の方向を理解することができる
	3	楽しい一日でした	行きます、来ます、会います、休みます、買います、日本、東京	短いブログを読んで、どこで何をしたかを理解することができる
	4	いくらですか？	一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、～万円、～千円、～百円、お金	レストランでメニューを見て、値段を理解することができる
	5	学習の振り返り	—	—

※魏ほか（2019）を参照し、筆者が加筆、作成した

ステップ内の構成について、「漢字 A1-1」のステップ 1 と 5、「漢字 A1-2」のステップ 5 を除き、全てのステップにおいて、①メインとなる学習コンテンツ、②確認クイズ、③タイピング練習コンテンツ、④手書き練習シートが含まれている。その中で、①②は学習が必須のコンテンツであるのに対して、③④は任意である。ステップ 5 は目標 Can-do の達成度とコース教材に対する意見を聞く任意アンケートである。

「漢字 A1-2」は基本的に「漢字 A1-1」の構成（魏ほか（2019）を参照）を踏襲し、開発された。ただし、学習しやすさを考慮し、『まるごと A1』のトピック 6～9 の出現漢字語を意味と使用場面によってグルーピングし、ステップに分けた。例えば、ステップ 4 の学習目標漢字語として、『まるごと A1』トピック 6 の出現漢字語もあれば、トピック 8 の

出現漢字語もある。

3.3 コースの特徴

魏ほか（2019）は「漢字 A1-1」の特徴について、1) 学習者の推測や気づきが促せるようなインタラクティブな学習を実現する、2) 達成感が得られ、継続的な学習につながるという 2 つのコンセプトで開発されたと述べ、教材での実現方法を詳しく説明した。

「漢字 A1-2」においても、上記のコンセプトで教材が開発されている。本節では、「漢字 A1-2」の教材を例として説明する。

まず、1) 学習者の推測や気づきが促せるようなインタラクティブな学習を実現するという点について、導入では、漢字をひたすら書いたり読んだりするのではなく、図 1 で示したように、学習者が最初に「当ててみよう」という感覚でクイズに答えたり（図 1-1、1-2）、アニメーションを見たり（図 1-3）することで漢字に対する推測と認知を深めた後、漢字の形、意味、音（読み方と音声）情報を 1 画面（図 1-4）で確認できるように、教材を制作した。これによって、受動的な学習スタイルを変え、学習者が主体的に漢字学習に取り組めるようになった（魏ほか，2019）。

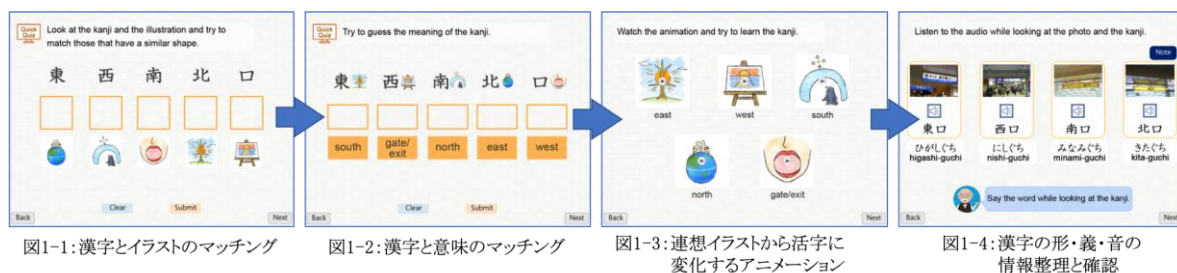


図 1：学習者の推測や気づきを促す教材例

次に、2) 達成感が得られ、継続的な学習につながるという点については、スモールステップで学習を進め、最終的に漢字を使ってリアルな使用場面に近いタスクを行うことができるように、教材の流れをデザインした。図 2 は、メインとなる学習コンテンツの流れを示すものである。

各ステップのメインとなる学習コンテンツにおいて、最初に 2 人のキャラクターの会話から漢字の使用場面を提示し（図 2-1）、目標 Can-do と学習目標漢字語を確認する（図 2-2、2-3）。導入、練習（図 2-4、2-5、2-6）、学習した漢字を使い、擬似体験的なタスクを行う（図 2-7）。最後に目標 Can-do を再び確認し、達成度を評価する（図 2-8）、という流れで制作した。このように、学習者は最初から明確な目標を持って学習を始め、学習した漢字が実際にどんな場面で使えるかを認識することができる。また、タスクを行う過程で達成感が得られ、継続的な学習につながると考えられる。

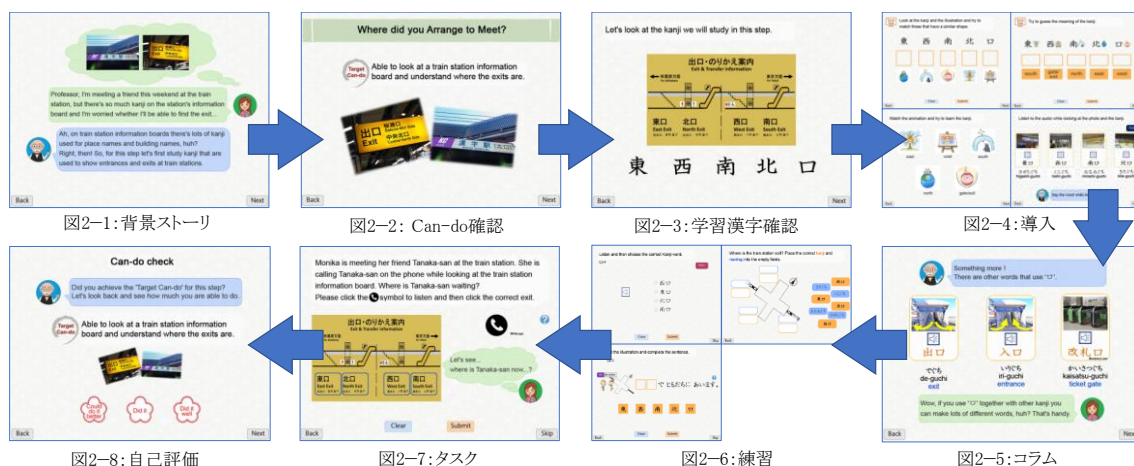


図 2：達成が得られ、継続的学習につながる教材例

3.4 「漢字 A1-2」制作上の改善と工夫

「漢字 A1-2」の制作において、先に開講された「漢字 A1-1」の開発と運用経験から多くのフィードバックを得て、教材の改善と更なる工夫を行なった。

まず、実際の生活における漢字の使用場面を重視し、多種多様なタスク制作に挑戦した。例えば、友人と待ち合わせる場面を設定し、電話で友人の居場所（「北口」「南口」などの漢字語）を音声で聞いて、駅の案内板を見て適当な出口を探すタスク（図 3-1）や、メニューを見て、料理を値段（漢数字で表記）の高い順に並べるタスクなどを制作した。

次に、コラムで学習目標漢字語以外の、学習内容と関係する漢字語や漢字に関する文化的な知識も扱った。例えば、ステップ 2 の学習目標漢字語は「北口」「南口」「東口」「南口」であるが、実際によく使われている「出口」「入口」「改札口」といった「口」を使った漢字語も写真で紹介したり、ステップ 4 で漢数字が実際にどんな場面で見られるかを紹介したり（図 3-2）した。

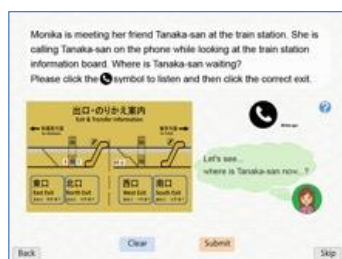


図3-1: ステップ2のタスク



図3-2: ステップ4のコラム

図 3：タスクとコラムの工夫

また、知識が定着するために、既習漢字語をできるだけ練習やタスクに取り入れるようにした。例えば、ステップ 2 の学習漢字語「東口」「南口」をステップ 3 の練習問題で使ったり、ステップ 3 の学習漢字語「日本」「行きます」「買います」をステップ 4 で使った

りすることにより、学習者が漢字を繰り返し学べるよう配慮した。

そして、教材の学習しやすさを改善した。例えば、ステップ 2 の聴解タスクにスクリプトを加えたり、ステップ 3 のブログを読むタスクに英訳を付けたりするといった工夫をした。また、教材の見やすさも改善した。ウェブコンテンツの利点を生かして、学習画面の指定されたエリアにマウスオーバーすると、スクリプトや英訳が現れるように作り、学習者が必要に応じて参照できるようにした。また、1 画面でたくさんの情報が集約される場合、マウスオーバーで漢字語の英訳が現れたり、画像が大きく表示されたりするように工夫した。

4. コースの運用と今後

入門（A1）レベル漢字オンラインコースが「みなと」で開講されて以来、受講者は 105 の国・地域で延べ約 13,000 名（2021 年 6 月時点）にのぼっている。特に多いのはメキシコ、インドネシア、ブラジル、フィリピン、ベトナムの受講者である。ステップ 5「学習の振り返り」ではコースについての意見を収集した。その結果、「コースの構成が非常にわかりやすく、勉強しやすい」、「タスクや練習などを通して、漢字と日本語の知識への理解を深めることができた」など数多くの好意的な評価があり、コースへの満足度が高いことが窺えた。一方、「学習漢字数が少ない」、「練習問題をもう少し増やしてほしい」、「次のレベルのコースを作してほしい」、という要望も聞かれた。今後、受講者からの意見に基づいて、教材内容を改善していく予定である。

コースは学習者の自学自習を目的として開発されたが、授業で活用している事例も報告されている。今後、多様な活用方法が期待される。

（注釈）

- 1) 「ひらがな A1 自習コース」と「カタカナ A1 自習コース」はそれぞれ英語版とスペイン語版があり、計 4 コースが「みなと」で開講されている。
- 2) 一部の教材は Adobe 社の e ラーニングコンテンツ制作用のソフトウェア「Adobe Captivate」を用いて制作された。他には、PDF 教材もある。

参考文献

- 加納千恵子. 2001 「外国人学習者による漢字の情報処理過程について:漢字処理技能の測定・評価に向けて」『文藝言語研究.言語篇』39 号 45-60
- 魏娜・安達祥子・笠井陽介. 2019 「主体的・継続的に学ぶための漢字オンラインコースの開発－制作上の工夫について」 CASTEL/J 2019 予稿集 183-186
- 信岡麻理・和栗夏海・伊藤秀明・山下悠貴乃・川嶋恵子・三浦多佳史. 2017 「「JF にほんご e ラーニング みなと」の構成と今後の展望」『国際交流基金日本語教育紀要』13 号 125-132 <https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/teach/research/report/13/index.html>